



問題か課題か

Answer or Solution

永田 円了

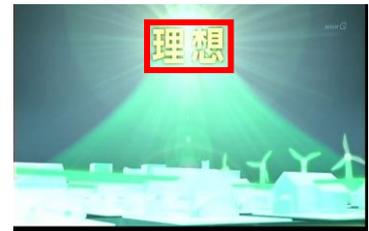
生きるということは、日々乗り越えていかなければならないことの連続である。今日ちょっと体調が悪い、熱もある、でも約束がある、どうしよう。あと1週間で原稿を提出しなければならない。他にもいろいろやらねばならないことが山ほどある、などなど。気にかかるこれらのことを、問題としてとらえるのか、それとも課題として見たらいいのか。この区別を検証するのが、今回のテーマである。

問題 vs. 課題

腹痛が起こったとしよう。さあどうする。問題として捉えるなら、何も考えることもなく、腹痛を楽にする鎮痛剤を飲むであろう。しかし数時間して薬がきれて再度腹痛が始まるかもしれない。

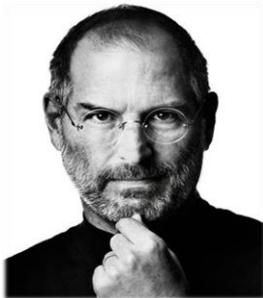
一方、もしこの腹痛を課題として見たなら、考え方は違ってくる。一体この痛みはどこから来るものなのか。食中毒か、ただの便秘か、いやもっと深刻な原因として感染症か悪性の腫瘍か、などなど腹痛の原因は数限りなくある。このようにいま起っていることの源を探って解決策を見つけて行くことを、課題解決型という。

現実世界に住む私たちは、この逃げ出したいような現実を、何とか理想に近づけるよう日々努力をする。一つひとつの不満を解消することに多くのエネルギーを費やす。これは、現実と理想のギャップを問題として捉え、現実にある不満を何とか1つでも理想に押し上げようとしている様である。



スティーブ・ジョブズの発想

画期的な製品を生み出すことで社会を変えたスティーブ・ジョブズ。物事を課



題として捉えた彼の哲学は会社を立ち上げた21歳のときから一貫していた。当時巨大で高価だったため、一部の専門家しか使えなかったコンピュータを小型化。誰もがパソコンを通じて情報にアクセスできる公正な社会を築きたいという思いがあった。

この製品はこんな機能があって、こんなことができますよ、ではなく、あくまでそれで人々の暮らしがどれだけ幸せになるのか。当時ジョブズが開発チームに配ったイメージ集には、幸せに満ち溢れる老若男女の顔、顔、顔が躍動している。開発チームに託された使命は、コストの削減や性能の向上ではなく、私たちの暮らしをどう変えたいのか、パンフレットのイメージから逆算して製品を開拓するよう求めた。この発想こそが、現在のアップル製品、誰もが日常で手にできるiPhoneに繋がった。

<事例>

IBM スマーター・プラネットの発想、課題解決型

NHK 熱論デフレ時代「ニッポンの生きる道」2011/1/1

スティーブ・ジョブズ「社会を変える」課題解決型 クロ現 2001/3月

「月を指せば指を認む」指をみて月を見ず／ブルース・リー

民俗学者・柳田国男／こんな石ころだけど、何かあるに違いない

一柳良雄が問う／武田悠太 (38) ビジネスを課題として

白川桃子「働かないおじさんが、御社をダメにする」

「弔いの時間 (とき)」葬儀を変容の機会として、ETV2023/1/14

歌・ブラザーズ・フォー「見果てぬ夢」The Impossible Dream



円了のホームページ: www.enryo.jp